

教育支援プログラム(A)



取組名称	シェイクスピア劇公演の開催
取組学部等	文学部英文学科
取組期間	2020年度

取組概要

これまで英文学科は、隔年で International Theatre Company London によるシェイクスピア劇公演（英語）を学科の共催行事として実施してきた。10回の公演実績を持つこの公演は、学科の伝統ある国際文化的行事として認知されている。2018年度の本教育IPプログラムにて実施した G・B・.ショー作『ピグマリオン』の日本語上演および関連する学術シンポジウムやワークショップでは、稽古場見学や舞台設営見学なども取り入れながら、シェイクスピアから脈々と続く英国演劇の理解を深める機会と、演劇上演そのものの裏側を知る場を学生に与えることに成功した。

2020年度の教育IPプログラムでは、20世紀以降のイギリスと日本におけるシェイクスピア演劇の受容を学生に紹介する。具体的には、イギリス人教員によるワークショップ（本学）と講演（東京）の開催、および日本人役者によるシェイクスピア悲劇の一人芝居公演（日本語）の実施である。4月開催予定のイベントでは、レスター大学の Dr Scott Freer を招聘し、20世紀の詩人 T・S・エリオットによるシェイクスピア論について、学部生を対象としたワークショップおよび教員との交流会を開催する。その目的は、日英で教える教員の意見交換で得た知見を、外国語学部でも継続される文学の授業に生かすことである。また T・S・エリオットを中心としたモダニストの詩人と日本との関わりについての東京講演を、外国語学部における文学教育の宣伝の一環として実施し、在京関係者にも参加を促したい。12月開催のイベントは、演劇人の中島淳一氏を招聘し、シェイクスピア悲劇『マクベス』を本学のコミュニティー・センターで上演する。観劇への学生の理解と関心を高めるために、学科の講義でこの劇と参考映像資料を紹介すると同時に、シェイクスピア研究者による『マクベス』についての学術講演会を公演前に本学で行う。これらのシェイクスピア関連イベントに加えて、ヨーロッパ文学・文化に関するイベントもいくつか開催し、来年度改組される外国語学部において、フランス語部門と英語圏部門との可能な共同企画を探りたい。最終的には、これらの企画を通して、シェイクスピア演劇がいかに英文学や演劇全般の中核となっているかを体験する機会を学生に提供し、演劇に関心をもった学生たちを2021年度に開催予定のシェイクスピア公演鑑賞へと導く。